

総務文教常任委員会研修視察報告書

1. 実施日 平成29年10月16日（月）～平成29年10月18日（水）

2. 参加者

委員長	田邊 信雄
副委員長	佐藤 久芳
委員	塚田 義一
委員	川島 広
委員	須田 敏彦
委員	浅野 正己
委員	渡邊 明
事務局	中繁 尚之

3. 視察地

岐阜県高山市
滋賀県長浜市
愛知県尾張旭市

4. 交通機関 貸切バス

5. 視察結果 別紙のとおり

◎視 察 地:岐阜県高山市

◎視察内容:まちづくり協議会の組織と運営について

【市の概要】

面 積：2, 177. 61 km²

人 口：89, 343人（平成29年9月1日現在）

人口密度：41人/km²

高山市は、平成17年2月1日に大野郡丹生川村・清見村・荘川村・宮村・久々野村・朝日村・高根村・吉城郡国府町・上宝村が合併したことにより日本で最も広い市町村となる。面積は香川県や大阪府よりも広く、東京都とほぼ同じであり、府県の面積よりも広い市町村は全国で唯一である。ただし、山林が市域の92%あまりを占めているため可住面積は限られる。飛騨山脈の北側に位置する飛騨地方は雪が多い日本海側の気候である。

高山市の中心市街地には、江戸時代以来の城下町・商家町の姿が保存されており、その景観から「飛騨の小京都」と呼ばれている。観光ガイドでは飛騨高山と記され、全国各地から毎年多くの人々が観光に訪れる。

北東部に飛騨山脈（北アルプス）を擁し、槍ヶ岳や穂高岳などの有名な山々を望む。また、近辺には交通の難所で知られた安房峠や、野麦峠がある。市内に位山、宮峠などの分水嶺があり、高山市を源流とする川は太平洋へも日本海へも流れる。旧荘川村は特別豪雪地帯、それ以外の地域は豪雪地帯である。

【背 景】

少子高齢化や人口減少、ライフスタイルの多様化などにより、様々な課題が増加し、とりわけ人口減少社会の本格的な到来は地域活動の停滞だけでなく、市政全般にわたり様々な影響を及ぼす重要かつ喫緊の課題であり、今後10年、さらにその先を見据えながら、選択と集中により取り組むべきことをしっかりと見定め、課題に対し積極的に取り組んでいかななくてはならない。

しかし、多様化・複雑化する市民ニーズや行政課題に対して、これまでのような仕組みや体制で対応していくには限界がある。持続可能なまちをつくるためには、地域社会を構成する多様な主体が協働して課題解決に取り組み、市民福祉の向上や地域コミュニティの活性化を図る必要がある。

【事業内容】

地域住民組織が「住みたい・住み続けたい地域」を目指して、それぞれに活動が展開されている。ところが、人口減少・少子高齢化が進む中、共働き世帯の増加や核家族化など、地域で暮らす住民の生活スタイルが大きく変わってきたことにより、地域が抱える課題も複雑化・多様化してきている。このような環境の変化に伴って、一人暮らしのお年寄り宅の除雪や子育てで悩んだ時に相談する相手が近くにいないなど、身近なところで課題が生

じている。

また、地域での連帯意識の希薄化が進むことにより、災害時に住民の安否が確認できないなど、大きな課題が生じてしまう可能性がある。こうした地域の課題を解決するためには、地域住民の皆が意見を出し合い、それぞれの団体が個別に活動してだけでなく、協働して活動し、住民の要望に、よりの確に答えるため、新たな組織として「まちづくり協議会」を組織した。

① まちづくり協議会の単位

顔見知りの関係づくりが容易であること、地域活動の単位として長い歴史を持っており、住民になじみのある単位であることから、高山地域は概ね小学校区単位、支所地域は支所地域をまちづくり協議会の単位としている。

② まちづくり協議会の構成

地区内の各種団体や個人で構成されているが、事業所や在勤・在学者も構成員の対象としている協議会もある。また、実施事業（サービス）は地区に住む全ての住民を対象に行われている。

③ まちづくり協議会の活動

安全安心で魅力ある地域をつくっていくために、「自分たちの地域は自分たちでつくる」という姿勢で、多様な住民の参画のもと、各種団体の協働によって、地区の課題や特色に応じた様々な活動を行っている。

活動の例

防犯・防災	防災体験教室、防災訓練、危険箇所マップの作成、防災連絡網の整備、交通安全教室 救命講習、防犯パトロール、消費生活講座
健康・福祉	健康体験教室（健康づくり、認知症予防、介護など）、日常の声かけ運動、見守りネットワーク、会食・配食サービス、ふれあいサロン、買い物支援、除雪支援、清掃支援
青少年育成	子ども体験教室、寺子屋、ふれあい教室、スクールサポート
自然・環境	環境体験教室、一斉清掃、特定外来種除去、花壇整備
教育・文化	伝統文化体験教室（民話、手工芸、料理）、地区の史跡めぐり
産業	地場製品の消費拡大（ジビエや地元食材料理講習など） ふれあい農園（遊休農地の活用）、産直市場、コミュニティビジネス
親睦・交流	夏祭り、運動会、敬老会、移住者歓迎パーティ、婚活イベント

④ まちづくり協議会の位置づけ

市では各地区の協働のまちづくりを担う組織の総称を「まちづくり協議会」とし、「主体的に地域の維持・改善・振興に取り組む地域を支える担い手」として位置づけている。また、市はまちづくり協議会と協働して地域課題の解決に取り組むこととしている。

【まとめ】

少子高齢化や人口減少、ライフスタイルの多様化による様々な地域課題の増加は、市政全般に影響を及ぼす重要な行政課題であり、未来を見据えてしっかりと取り組まなければならない。しかし、多様化する市民ニーズや行政課題に、これまでのような仕組みや体制で対応していくには限界がある。そういった中で、高山市では「市民が主役」という理念のもとで地域課題は地域で解決する「まちづくり協議会」を組織している。顔見知りでの関係づくりが容易であることから、概ね小学校区単位で協議会を設置し、地域内の団体、個人、事業者が地域の課題や特色に応じて活動を行っている。

群馬県内35市町村で一番面積の小さい本町では、組織規模などの課題はあるが、行政として一定の形ができるまでは先導的な役割を果たしながら、地域の課題は地域で意見を出し合い課題の解決を図っていく「まちづくり協議会」の設置は、ぜひ推進すべきである。

◎視 察 地:滋賀県長浜市

◎視察内容:学校給食費の無料化について

【市の概要】

面 積：539.63km²

人 口：119,468人（平成29年9月1日現在）

人口密度：221人/km²

長浜市は、滋賀県の東北部に位置し、北は福井県、東は岐阜県に接している。周囲は伊吹山系の山々とラムサール条約の登録湿地でもある琵琶湖に面しており、中央には琵琶湖に注ぐ姉川や高時川、余呉川等により形成された豊かな湖北平野と水鳥が集う湖岸風景が広がり、県内でも優れた自然景観を有している。

また、北國街道やこの街道と中山道を結ぶ最短経路であった北國脇往還沿道や、戦国時代を偲ばせる長浜城や小谷城跡、賤ヶ岳、姉川古戦場をはじめ、竹生島の宝巖寺、渡岸寺の国宝十一面観音をはじめとする数多くの観音が祀られる観音の里など、歴史的遺産を有している。

天正年間に羽柴秀吉が今浜を長浜に改名し、小谷城下などの商人たちを集めて楽市である城下町を作ったのが、現在の長浜の基礎となっている。

昭和18年に長浜町、六荘村、西黒田村、神照村、南郷里村、北郷里村、神田村の1町6村が合併して市制が敷かれ、平成18年に長浜市、浅井町、びわ町の1市2町が合併、平成22年には旧長浜市、東浅井郡虎姫町、東浅井郡湖北町、伊香郡高月町、伊香郡木之本町、伊香郡余呉町、伊香郡西浅井町の1市6町が合併し現在に至る。

【背 景】

子どもは未来の礎であり、未来を築き社会を担う「宝」である。その大切な子どもたちを心身ともに健全な大人に育ててあげることが、保護者だけでなく市民全体の責務であり、生きていく上で、最も大切な「食べること」に対して、市民全体で支援し、子どもたちの成長を見守っていくとともに少子化対策、子育て世代の経済的負担の軽減を図るために給食費の無料化を行う。

【事業内容】

長浜市は平成28年2学期から、市内の全小学校の学校給食を無料化した。少子化対策として平成28年度一般会計当初予算案に関連予算1億6,500万円を計上し、子育て世代の負担軽減、定住人口の増加を目指す。

- ① 対象児童 約6,800人 (市内小学校全27校)
- ② 事業予算 266,452千円 (平成29年度当初予算)
1人あたり年間4万4千円

【まとめ】

長浜市では、市民全体で子育て世代の経済的な負担を軽減し、子育て世代の流出や移住定住の促進につなげるため、市内27小学校の給食を無料化した。人口10万人を超える都市としては初めての試みであるが、平成29年度予算は266,452千円となり、一般会計予算に占める割合は0.5%強で、財政への負担は大きくなっているようである。

本町では給食費の20%を補助しているが、給食費無料化については教育費負担軽減策など、国の動向等を見定めながら取り組む必要がある。

◎視 察 地:愛知県尾張旭市

◎視察内容:危機管理体制について

【市の概要】

面 積：21.03km²

人 口：83,236人（平成29年8月末現在）

人口密度：3,957人/km²

昭和45年に東春日井郡旭町が市制を施行し、愛知県下27番目の市として誕生。名古屋から瀬戸へ伸びる瀬戸街道の中間に位置し、名古屋市の東部近郊たる尾張丘陵の工業・住宅都市として近年発展している。市域に愛知県森林公園、城山公園、小幡緑地などの公園が多い。特に愛知県森林公園は市の面積の15%程度を占め、広大な県有林の中に、数々の体育施設・ゴルフ場・池・植物園等が配置されている。乗馬場は1994年に開催された第49回国民体育大会の馬術競技場として使用された。平成16年には世界保健機関西太平洋地域健康都市連合に加盟し、健康都市宣言を行った。「寝たきりにさせない街づくり」、「外に出かけたくなる街づくり」、「住み続けたくなる街づくり」を目指した事業を施策し、「健康都市 尾張旭市」を標榜している。

【背 景】

尾張旭市では消防団組織の充実、強化を図り、地域防災力の向上を図ることを目的に様々な事業を展開した。

【事業内容】

「消防団応援事業所制度」

平成27年6月1日から消防団組織の充実強化を図り、地域防災力を向上することを目的に事業を開始した。

この事業は市内の事業所や販売店・飲食店の経営者から、消防団に各種サービスの提供を行ったりポスターを掲示したりするなど、様々な形で消防団を応援していただく制度である。

こうした取り組みを通じて、地域の方々に消防団をアピールし、消防団の認知度を高めるとともに、事業所や販売店・飲食店にとっては社会貢献のイメージアップと、顧客として消防団員の集客率を高める効果が期待できる。

① 対 象 : 団員、団員OB、団員家族、団員同伴者 など

② サービス内容 : 購入代金の割引、ポイント2倍、ドリンク1杯サービス など

「学生消防団員活動認証制度」

尾張旭市の消防団員として消防団活動を行った学生の功績を尾張旭市長が認証し、「尾張旭市学生消防団員活動認証状」を交付する。認証された団員は就職活動の際、尾張旭市が

発行する証明書を企業等に提出できる。この制度は学生消防団員の就職活動を支援することで、学生団員の士気を高め、これからの地域防災の中核を担う人材を継続的に確保するための取り組みとして行っている。

① 学生としてのメリット

- ・消防団員として地域に貢献してきた実績を企業にアピールすることができる。
- ・消防団活動における功績が評価されることで、学生の意欲の向上が期待できる。

② 企業としてのメリット

- ・社会貢献実績のある人材や団体行動、規律等を身につけた人材を確保しやすい。
- ・消防団経験者を採用することで災害対応能力の向上が期待できる。

「尾張旭市少年少女消防団」

消防職員、消防団員、婦人消防クラブ、自主防災組織等の地域防災の担い手として、また、子どもたちが災害発生時に適切な行動がとれ、命とくらしを守る大切さを学び、地域との関わりや地域社会に貢献をする経験を積むために、平成25年7月1日より市内小学5、6年生を対象に結成された。第1期生は17名で活動を開始し、第5期生が平成29年4月に入団し、総員47名で活動を行っている。

- ・活動内容：入団式、消防団観閲式、花火講習会、着衣泳講習、全国交流会、市防災訓練、福祉施設への訪問、出初式、防災施設見学 など

【まとめ】

消防団員の確保は全国的にも大きな課題になっているが、尾張旭市で実施している「消防団応援事業所制度」「学生消防団員制度」「少年少女消防団の結成」は将来を見据えた取り組みとして期待できる事業だと感じた。特に将来の地域消防の担い手として人材育成を目的とし、小学5、6年生を対象に結成された少年少女消防団は着実に定着しており、現在では小、中、高校生の児童生徒47人が団員として活動している。

本町においても、「消防団応援事業所制度」、「学生消防団員制度」、「少年少女消防団の結成」について関係部局がしっかりと連携を図り早期に実施するべきである。